

中山間地域での栽培に適した青立ちの少ない大豆品種「里のほほえみ」

【要約】 青立ちの発生が問題となっている県内中山間地域の大豆奨励品種「タチナガハ」と比較し「里のほほえみ」は青立ちが少なく、多収、大粒で、かつ蛋白質含有量が高く、中山間地域での栽培に適する。

中山間農業研究所 作物・果樹部

【連絡先】 0577-73-2029

【背景・ねらい】

県内中山間地域の大豆は「タチナガハ」を奨励品種として生産を奨励している。しかし、「タチナガハ」は青立ちの発生が多い。そこで青立ちの少ない「里のほほえみ」の中山間地域における栽培特性を平成27年～令和3年にかけて調査した。

【成果の内容・特徴】

- 1 「里のほほえみ」は「タチナガハ」と比較し以下の特徴がある。
 - 1) 開花期は1日遅く、成熟期は2日早い(表1)。
 - 2) 主茎長は2cm短く、倒伏程度は小さい(表1)。
 - 3) 最下着莢節位が3cm高く、収穫機械の適応性が高い(表1)。
 - 4) 8%多収である(表1)。
 - 5) 青立ちの発生が少ない(表1)。
 - 6) 蛋白質含有量が高い(表1)。
- 2 「里のほほえみ」は6月10日頃の播種で青立ちが少なく、収量性が高い(表2)。
- 3 「里のほほえみ」は、現地試験においても「タチナガハ」より多収で、青立ちが同等～少ないことが確認できている(図1)。

【成果の活用・留意点】

- 1 栽培適地は標高200m以上とする。
- 2 本試験は飛騨市古川町是重(標高493m)で栽培した結果であり、導入の際には導入地域に合わせた栽培方法を検討する。
- 3 青立ちは少ないが、しわ粒がやや発生しやすい特徴がある。しわ粒の発生が多い場合は、子実肥大期の栄養状態改善のための施肥や適期刈取りを徹底するなどの対策が必要である。

【具体的データ】

表1 調査結果 (H27 ~R3 平均値)

品種・系統名	播種日	開花期	成熟期	主茎長	主茎節数	一次分枝数	莢数	最下着莢節位高	子実重	標準対比	大粒比率	百粒重	育中の障害(0)			障害粒(0-5)				子実成分										
													倒伏	蔓化	青立ち	紫斑	褐斑	裂皮	しわ	虫害	粗蛋白質	粗脂肪	全糖							
													(月.日)	(月.日)	(月.日)	(cm)	(節)	(本/株)	(莢/株)	(cm)	(kg/a)	(%)	(%)	(g)				(%)	(%)	(%)
対 tachinaga	6.08	7.27	10.10	67	13.3	5.7	64	19.3	26.2	100	78	32.2	1.4	0.0	1.1	0.9	0.3	0.2	2.0	0.8	40.6	21.9	23.0							
里のほほえみ	6.08	7.28	10.08	65	12.9	6.1	63	23.1	28.3	108	92	37.7	0.8	0.0	0.7	1.0	0.2	0.5	2.3	0.8	44.7	21.1	21.4							

注1) 主茎長：子葉節から茎の生育点までの長さ
 注2) 一次分枝：2以上の節を有するもの
 注3) 最下着莢節位高：最下着莢節位の子葉節からの長さ
 注4) 大粒比率：7.9mm目の篩上が精子実に占める割合
 注5) 子実重、百粒重：7.3mm目の篩上子実より虫害粒等を除いた精子実 (水分15%換算値)
 注6) 外観：1-7 = 上の上-下
 注7) 障害：1-5 = 無-甚
 注8) 子実成分：農研機構次世代作物開発研究センターによる近赤外法による測定

表2 播種時期の影響 (H30 年度)

播種日	tachinaga		里のほほえみ		tachinaga		里のほほえみ		tachinaga		里のほほえみ	
	子実重(kg/10a)		百粒重(g)		子実重(kg/10a)		百粒重(g)		青立ち率(%)		青立ち率(%)	
5.29	27.2	24.8	40.4	38.7	30.6	12.0						
6.12	23.0	34.6	39.3	42.8	19.3	0.0						
6.26	32.4	26.0	37.7	42.2	10.6	0.8						
7.10	28.0	23.3	39.2	42.5	1.9	0.0						

注1) 7.3mm目の篩上子実より虫害粒等を除いた精子実 (水分15%換算値)
 注2) 青立ち率：茎の緑が約6割以上残っている個体数/調査個体数

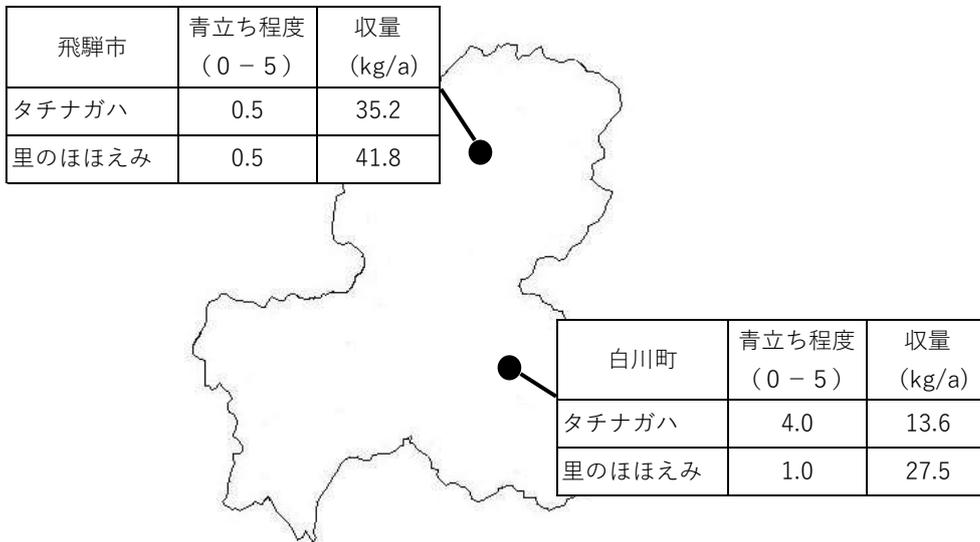


図1 現地調査結果 (飛騨・可茂農林事務所農業普及課 R1 年度)

研究課題名：奨励品種決定調査 (平成27年~令和3年)

研究担当者：可児友哉